

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012 024
日産CSR重点9分野	027
日産CSRスコアカード	
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Our Views

社員一人ひとりが考える サステナビリティ



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114

社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 126

パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Our Views

社員一人ひとりが考えるサステナビリティ

ここでは経営陣や社員から寄せられた、自身の実体験や日ごろの業務を通じて考えている「サステナビリティ」への想いをご紹介します。



日産自動車株式会社 (日本)
執行役員
LCV事業本部 LCVプログラムダイレクター
日産ライトトラック株式会社 (日本)
社長
東風汽車有限公司 (中国)
董事
アンディ パーマー

日産は、小型商用車 (LCV) 部門を将来の事業の柱として育て上げることに成功しました。世界的に事業を拡大している時期に、サステナビリティや企業の社会的責任という問題に目を向けるのはなぜでしょうか。それは社会における自らの役割を考える責任があるからです。お客さまも日産がCSRに配慮することを望んでおり、社員の間でもCSR活動への参加意欲が高まっています。2006年にLCV事業本部が業績好調により表彰された際、社員たちは賞金を「コスモス会」という団体に贈りたいと申し出ました。コスモス会は、日産東京本社近くの病院でがんと闘う子どもたちの母親が設立した組織です。自分たちの成功を他の恵まれない人びとと分かち合えることは私たちの喜びでもあります。企業としての社会的責任はもちろんのこと、事業の成功によって病気の子どもたちを笑顔にできる、そんな想いが私たち一人ひとりの原動力になっています。



日産自動車株式会社 (日本)
市場情報室
執行役員
星野 朝子

クルマという商品の競争力は、どれだけ多くのお客さまに日産車を愛していただけたか、価値を感じていただけたかということで測定することができます。それに対して、企業が「サステナビリティ」という側面から継続して愛され続けるためには、日産はどうあればよいのか、それはどのような指標で測定が可能なのか。これはまさに、世界中の市場情報を日々分析し、さまざまな部署に提案を行っている私にとって大きな課題です。

「魅力的なクルマを売ればよい」という発想では、決して企業が長期的に競争優位に立つことはできません。「お客さまに魅力的なクルマを提供し続けられる力」をフルに発揮するためには、関連するステークホルダーや社会そのものとの関わりを強固にしていく活動が不可欠だと思います。そのためには、まず信頼関係の構築。その次に「愛すべき日産らしさ」の提供ではないか、と考えています。



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135



日産自動車株式会社(日本)
技術開発本部 技術企画部
エキスパートリーダー

広田 寿男

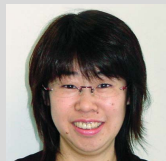
科学技術の進歩は私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれますが、一方で、エネルギー消費の増大による自然環境への影響も大きくなりつつあります。このままでは私たちの生活は立ち行かなくなるかもしれません。子どもたちや次の世代の人たちのためにも自然環境を守っていくことが大切です。中でも、大気中のCO₂の増加を抑制することが今もっとも重要な課題です。開発部門ではクルマからのCO₂排出削減で高い目標を設定しており、エンジンの燃費低減や車両軽量化、バイオ燃料対応や電動車両など代替エネルギー技術の開発、さらにエコ運転や渋滞回避の技術に総力を挙げて取り組んでいます。これらの技術を社会に広めていくことで、サステナブルなモビリティを実現したいと考えています。



日産自動車株式会社(日本)
生産事業本部 NPW推進部

大宮 克彦

私が先輩から教わり、また後輩に伝えてきたことのひとつに「日産のモノづくりのノウハウ」があります。これを生かして、日産発祥の地である神奈川県内で小学生を対象とした「モノづくりキャラバン」を実施しています。これまで小学5年生、約4,700名が参加しました。モノをつくったり、触ったりすることが大好きな子どもの心をどう揺さぶり、興味を引き出すかということを、私はいつも真剣に考えています。子どもたちが時折見せる「なんだこれ?」「見逃さないぞ」といったキラキラした眼差しに触れるたび、大きな喜びを感じます。未来を担う子どもたちにモノづくりの楽しさを感じてもらえるよう、このプログラムをさらに良いものとし、長く続けていきたいと考えています。



日産自動車株式会社(日本)
トータル カスタマー サティスファクション本部
サプライヤー品質保証グループ 課長

保坂 麻佐子

クルマは数万点もの部品で構成されています。お客さまに高品質の製品を提供し続けていくためには、それらの部品を供給するサプライヤーとWin-Win(互いに利益を得る)の関係を構築し、ともに発展することが必須です。すなわち、サプライヤーを含めた周囲との「共生」という発想が重要であり、私はそれをつねに念頭において業務を進めています。そうした発想によって、お客さまに高品質な製品をご提供することができるだけでなく、企業としての社会的責任を果たし、日産が今後も持続的成長を遂げていくものと確信しています。



ジヤトコ株式会社
人事部

リチャード ゴッツ

ジヤトコは今、急速にグローバル化を進めています。激化する競争の中では、グローバルに事業を進めなければ生き残れません。そしてグローバル化のシナジー効果を生み出すためには、異なる背景を持つ者同士がお互いの文化や習慣、考え方を理解し、尊重することが必要です。そのため私は各国の拠点で使用できる、世界共通の方針やプロセスづくりを進めています。社員一人ひとりが性別や国籍などに関わらず、グローバルな発想を持ち、ダイバーシティに富んだ環境で意欲的に仕事ができるように、このプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135



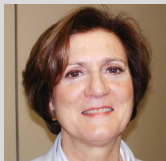
北米日産会社(米国)
ITS・安全担当シニアエンジニア
渉外
サラ ヒブル

米国では近年、事故防止や衝突回避の技術がクルマの安全性を高めるとして注目されています。日産の「レーンデパーチャープリベンション」や「フォワードコリジョンワーニング」もその例で、こうした安全技術の開発と普及に携わる仕事に、私は大きなやりがいを感じています。次世代の日産車は、車両事故の大幅削減という「セーフティ・シールド」の目標に貢献できるはずで、急速な技術革新の時代にあつて、こうした技術を市場に浸透させるチームの一員であることは誇りであり、そうした努力が人びとの生活を豊かにすると信じています。



メキシコ日産自動車会社
シバック工場 環境担当
アドルフォ アブルト

20数年前、国連は「われら共有の未来」という報告書を発表し、生態系破壊の進行を防ぐためには、人類が商業活動や生活様式を変えなくてはならないと警告しました。今では、企業が社会的責任を果たすためには、「持続可能な開発」の追求が必須のものとなっています。私はメキシコ日産で10年近く「持続可能な開発」に関わる仕事をしています。環境ISO (ISO 14001規格) 認証を取得したことや、クリーン産業、環境保全の優良企業としてメキシコ政府から表彰されたことは、私たちの取り組みが正しいことの証であると思います。



日産モーター・イベリカ会社(スペイン)
生産・情報システムマネジャー
マリア ドロレス グラネス バヨナ

私が携わる「情報システム」の役割は、目標達成に必要なツールを企業に提供することです。欧州日産の情報システム部門と日産スペイン生産部門では、スペインのバルセロナ、アビラの両工場における生産体制の改善を目指す“Shift_NSIO”イニシアティブを共同で立ち上げました。私たちの目標は、フル稼働に向けた生産最大化、弾力的な生産システム、1ラインで複数モデルあるいは2ラインで1モデルなど状況に応じて柔軟に対応できる生産体制の実現です。こうした取り組みがクルマの納期短縮を可能にし、日産の持続可能な成長につながると考えています。



日産(中国)投資有限公司
北京研究開発部
環境・安全技術渉外
谷 碩

中国は今や世界第2位の自動車大国となり、都市部での渋滞に起因する大気汚染や、燃料不足などの問題を抱えています。こうした深刻な環境問題に直面している国に生活している私は、自動車環境法規の担当者として自分の仕事の大切さと責任の重さを感じています。中国が持続可能な自動車社会を築いていくには、自動車の環境インパクトをより小さく抑えていく必要があります。先進技術を駆使した環境に優しい自動車が一瞬も早く中国に導入され普及するよう、新たな発想を中国からどんどん発信していきたいと思っています。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135



インド日産会社
マーケティング・販売ダイレクター
ニーラジ ガーグ

これまで20年あまり、インド国内や海外で自動車産業に携わってきました。インドのような競争の激しい市場で生き残れるのは、鍵となるプレーヤーだけだと痛感しています。企業がインドで生き残るためには、革新する可能性と、ステークホルダーとの信頼関係を築く能力が必要です。ここ数年間はインド日産で事業プランニングに携わっていますが、多文化から生じるさまざまな要望に的確に応えつつ、事業において先駆的なアプローチを取ることができれば、サステナビリティは必ず後からついてくるものだと確信しています。



ユニバーサル・モーターズ社(フィリピン)
取締役副社長
エリザベス リー

ユニバーサル・モーターズ社は、フィリピンの貧しい人びとの生活を豊かにする活動に取り組んでいます。たとえば、日産の商用バン「アーバン」の購入者がシャトルバスによる輸送ビジネスを立ち上げて、借入金を返済できるというパートナーシップ・プログラムを導入しています。また「アーバン」を1台販売するごとに提携財団に寄付を行い、小規模ビジネスの設立資金を提供しています。クルマの購入者に起業や経営の基礎を教える学校も設立しました。すでに支援した家族は1,850、雇用創出は3,300人にのぼり、この功績に対してアロヨ大統領から表彰を受けました。



日産プリンス大分販売株式会社(日本)
CS推進室 室長
堤 正博

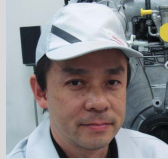
日産プリンス大分販売(株)は、「地域・社会貢献」を企業理念のひとつとして掲げ、さまざまな活動を進めています。その内容は、環境美化、交通安全の啓発、子育て支援、福祉機器の寄贈など多岐にわたり、年間計画を作成し実施しています。環境美化のひとつに「日産プリンス大分の森」づくりというボランティア活動があります。大分県由布市湯布院町の丘陵1.2ヘクタールを開墾、植樹し、森の育成を図る取り組みで、年間700名が参加しています。地域・社会貢献の原点とは、私たち一人ひとりが自らの問題としてとらえ、積極的に活動に参加することにあると考えています。これからも社員一同、楽しみながら息の長い活動を展開していきます。



北京運通インフィニティ(中国)
販売課 課長
張 元

急速な経済成長を遂げている中国は、「インフィニティ」の市場として非常に重要です。中国市場の勢いとともに、北京運通インフィニティも成長を続けています。私たちは、短い期間で数多くの業績を上げてきたことに誇りを感じています。中国の消費者にふさわしい、ニーズに応じたダイナミックな製品と洗練されたサービスこそが、私たちが提供する価値であると考えています。中国で1人でも多くのお客さまにインフィニティブランドの高級車の魅力を体験していただき、中国での「高級車」のコンセプトを変えていくことが目標です。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135



日産自動車株式会社 (日本)
横浜工場 第一製造部 組立課
工長
斯波 勝則

私たち横浜工場の社員は、日産の歴史に残るエンジンの立ち上げから生産まで行ってきました。今後もマザー工場として日産ブランドをさらに高めていきたいと考えています。今回担当する「GT-R」向けVR38型エンジンの生産では、ゴミ・ホコリの一切ない徹底された環境下で、まさに「GT-R」の心臓部づくりにふさわしく、1人の職人が投入から完成まで一貫して行います。私たちには、「匠」というべき職人集団をつくり上げた自負があります。「常勝職人がつくる常勝エンジン」という目標を掲げて、日産のフラッグシップエンジンである「GT-Rエンジン」が「日本の最高峰」から「世界の最高峰」と呼ばれるよう、今後も邁進していきます。



英国日産自動車製造会社
サンダーランド工場
メンテナンススーパーバイザー
バーニー ポイントン

日産のサンダーランド工場には風力発電設備があります。先ごろ8基目のタービンが設置され、これにより年間電力使用量の約6%を風力発電でまかなうとともに、CO₂排出量を4,000トン削減できる見通しです。工場には省エネ対策を実行する複数の専門委員会があり、週末の低エネルギー体制、非生産時の自動停止、空気漏れの削減や省エネ型機械の導入といった課題に取り組んでいます。その結果、工場全体のエネルギー・コストが大幅に削減されました。また環境対策の一環として、2007年に工場が発生した廃棄物の92.5%を再利用しました。



北米日産会社 (米国)
キャントン工場
車体・プレス加工 マネジャー
エリック パーセル

米国キャントン工場が、日産のLCV (小型商用車) ラインアップ拡充の一翼を担うことになり、とても楽しみにしています。米国では小型トラック市場が縮小する一方、LCV市場はきわめて堅調に推移しており、LCV市場への参入は適切な対応といえます。私たち技術者が「日産ウェイ」の精神と行動に則って設計部門などと緊密に連携することで、信頼性や耐久性に優れた、コスト効率の良い高品質のクルマを生産できると信じています。それが日産の長期的な持続可能性や社員の達成感にもつながることでしょう。キャントン工場が日産のLCV生産の拠点となることを誇りに思っています。



南アフリカ日産自動車会社
ロスリン工場
生産管理本部長
イノック モトセペ

生産管理者にとって、お客さまにご満足いただける製品をつくることは何よりも大切なことです。そのため、組立に必要な量の部品を必要な時間・場所に供給して、生産目標の達成に努めています。部品の供給体制を簡素化して製造ラインの流れを円滑にしたり、在庫を定期的にチェックして必要な量の部品をすぐに使えるようにすることで、不良品の発生を防いでいます。南アフリカ日産では継続的な改善や活発な話し合いを心がけており、生産体制をフルサポートしながらチーム一丸となって業務にあたっています。こうした努力が報われるのは、お客さまが私たちのクルマに満足する、その瞬間なのです。